

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告: 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意: 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

● 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の危険があります
- 交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板が電氣的に接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すおそれがあります

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になる場所には取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは、確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは28kgの重さがあります

取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります
- 大工工事(設置のために下地工事等)・配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等)・管工事(ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等)
流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建築工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください
- ダクトの不燃処理について
ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください
施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します
- 屋外壁面の排気出口に取り付けベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h時50Pa以下のものをご使用ください
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲曲したダクトは排気効率をいじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を付けてください。(目安:勾配1/100~1/50程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。なお、レンジフードの取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください
- レンジフード下部には、海湧器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください
- 漏洩器の真上は高熱になるため故障の原因になります
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります
- 建物が密集している場合は必ず、約400cm²程度の空気取入口を設けてください
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので不燃処理された断熱材を巻くなどの対応をしてください

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の危険があります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
- レンジフードは、薄板の金属(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火するおそれがあります

注意

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

- 1 取付場所の強度確認
製品を支える強さが必要です。製品質量 28kg
- 2 天井面への穴あけ(取付詳細図-1)
1) 天井面のレンジフードを取り付ける位置に開口300mm×奥行300mmの開口をあけてください。
2) 開口周辺を補強板で補強してください。
※補強板は、野線・野線受け等に固定してください
- 3 吊りボルトの取り付け(取付詳細図-2)
レンジフードの吊りボルト位置に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。
※吊りボルトは、M10~12を用いてください
※吊りボルトは製品を支える十分な強さを確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります
- 4 排気ダクトの取り出し(取付詳細図-2)
φ150のスパイラルダクトを、取付詳細図-2の位置に取り出してください
- 5 標準取付法
本製品の標準取付法は、調理機器上面からレンジフードの下端まで80cmです。
※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となります

電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは、専用のものを設置してください。(交流・単相100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。

● 必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ

ダクトカバー(別売品)
連動信号受信部(機種により有無があります)
電源プラグ
横ふた
前ふた
本体
スイッチ
照明
フード
ヘルマウス
オイルバック
オイルパネル
整流板

製品寸法図

ソフトスイッチタイプ(機種によってアース線の有無があります。)

寸法表 (単位: mm)

ダクトカバー品番	製品総高さA	設置寸法(例)	
CDDH-115 *	600~680	製品取付高さB 天井高さ:C 1500 2200~2280 1650 2250~2330 1700 2300~2380 1750 2350~2430 1800 2400~2480 1850 2450~2530	
	CDDH-195 *	680~760	製品取付高さB 天井高さ:C 1650 2330~2410 1700 2380~2460 1750 2430~2510 1800 2480~2560

付属品

- トラスねじ(M4×10) 4本
ダクトカバーの取り付けに使用します。
- トラスねじ(M5×12) 4本
フードの取り付けに使用します。
- 煙道 1個
本体内部に取り付けます。
- ヘルマウス 1個
(煙道にテープで固定されています。)本体内部に取り付けます。
- ソフトテープ 1本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

1. 付属品の確認

注意

- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは28kgの重さがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

● 保護用のクッション材と、固定用テープはキズ、破損防止のため、「3. フード・本体の準備」までは必ずおこなってください。(図1-1)
● 床で作業する場合は、床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
● 取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。

2. 取付準備

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

- 1 事前に管工事業者(法的有資格者)へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。(図2-1)
また、天井開口部近くの補強機または野線等に専用コンセントを設置します
- 2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを窓のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。(図2-1)
- 3 M10~12の吊りボルト(取付業者側手配)を4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは前後、左右とも275mmです。(図2-1)

● 天井面からのダクトと吊りボルトの突き出し長さ(A)は、製品総高さ(総幅:600~760mm)により異なります。製品寸法図を参考にし、次式により算出してください。
ダクトと吊りボルトの突き出し長さ(A) = 「製品総高さ」- 460

例) 製品総高さ 600 140(+10)まで
680 220(+10)まで
760 300(+10)まで

3. フード・本体の準備

● 準備は必ずします。

- 1 保護用のクッション材をはずし、整流板の左右にあるストッパーを押してはめます。(図3-1)
- 2 整流板を両手で支えながらゆっくりと開き、後ろを持ち上げて整流板吊り金具からはめます。(図3-2)
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

● オイルバックをはずします。(図3-3)

- 1) 固定テープをはがします。
- 2) オイルバックのツマミを持ち、矢印①の方向に押し込んでから、②の方向に上げてはめます。

● 本体の準備

● 前ふた・後ふたをはずします。(図3-4)
前ふた・後ふたを固定しているテープをはがし、前ふた・後ふたの上端を手前に引いて横ふたからはめます。

● 横ふたをはずします。(図3-4)
※両側ともはずす場合は同じです。
横ふたを固定しているトラスねじ(M4×10) 8本(片側4ヶ所)をはずし、横ふたをはずします。
※取りははずしたねじは「7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け」にて再度使用しますので、なくさないでください。

● ソフトテープを貼り付けます。(図3-5)
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

4. 本体の取り付け

- 1 レンジフードの固定位置を決めます。(図4-1)
1) 右図を参照し、次式によりマーカ位置(X)の値を算出してください。
X = 「天井高さ」 - (「床から調理機器上面までの高さ」 + 80 + 480)
例: 天井高さが2350mm、床から調理機器上面までの高さが850mmの場合
X = 2350 - (850 + 800 + 480)
天井からのマーカ位置(X)は220mmとなります
- 2) 吊りボルトにマジックペンなどで、天井からXの値の位置にマーカをつけます。

● ダクトカバー(別売品)を取り付けます。(図4-2)
ダクトカバーに付属の座付ねじ(φ5.1×25) 4本でダクトカバーを天井面に固定します。

● 切り欠きのある面をレンジフードの前後方向にしてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。

● 吊りボルトにナットを取り付けます。(図4-3)
M10~12にナットおよびワッシャー(取付業者側手配)を吊りボルトのマーカ位置まで差し込みます。

● 本体を吊りボルトに固定します。(図4-4)
1) 取り付けしたダクトカバーに本体両脇のガイドを差し込みながら本体を持ち上げ、4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側からM10~12のナットおよびワッシャー(取付業者側手配)でしっかりと締め付けます。
● 注意
● ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
● 本体両側にあるストッパー金具を持って持ち上げてください
● ストッパー金具が変形してフードが正しく取り付けられなくなります
- 2) 「5. 電気配線」を一読してから電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。
● 必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。
● アース(D種接地工事)を取り付けます。

● 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図4-5)

● 排気口設置面の漏風確認のお願い(図4-6)
排気口とダクトを接続する際、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(製品天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れの確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。

6. ダクトカバーと本体を固定します。(図4-7)

付属品のトラスねじ(M4×10) 4本で左右各2ヶ所を固定します。

● 注意
● 配線を採まないように十分注意してください。

7. フードを取り付けます。

1) フードを2人持ち上げ、フード中央の開口部を本体に差し込みます。(図4-8)
● 注意
● フードをしっかりと持ったまま下に少し動かして、外れないことを確認してください。ストッパー金具の戻りが不完全な状態で手を離すと落下するおそれがあります。

● ストッパー金具の動き
本体側
ストッパー金具
フードを持ち上げる
フード引掛部
本体側
ストッパー金具
フード引掛部

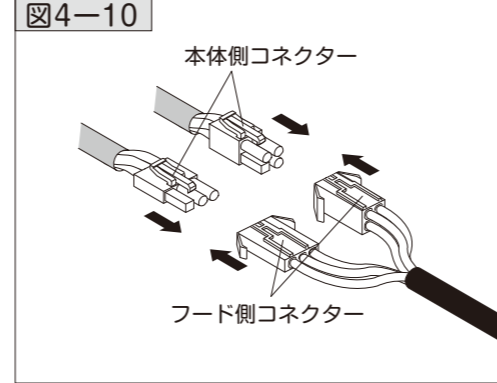
● 付属品のトラスねじ(M5×12) 4本で本体上側から右図の各位置を固定します。(図4-9)
● 注意
● トラスねじ(M5×12)を締め込む前は、本体とフードとの間に隙間があります。ねじを締め付けるときは、4ヶ所の隙間が半分くらいになるまで締め付けてから完全固定してください。

● 取り付けかたは裏面に続きます。

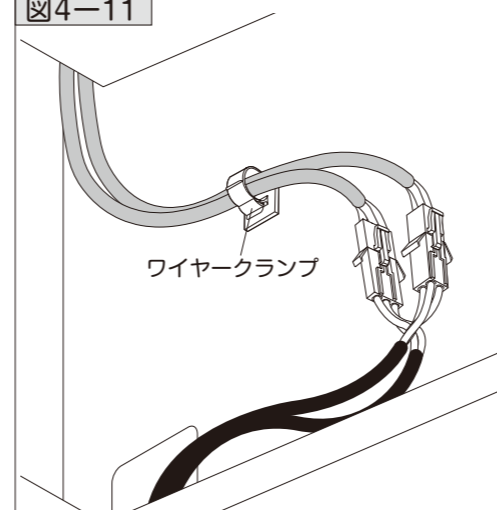
こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

8 コネクターを接続します。

1) フードから出ている配線のコネクターを本体のコネクターに接続します。(図4-10)




2) 接続したコネクター配線を本体内部に収納します。この時、ワイヤークランプが配線を固定していること(線の通り)を確認してください。(図4-11)



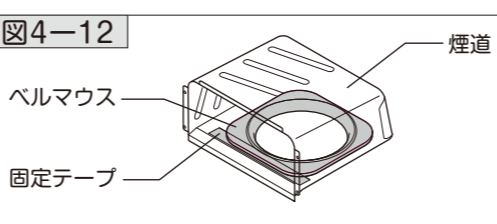
お願い

コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。

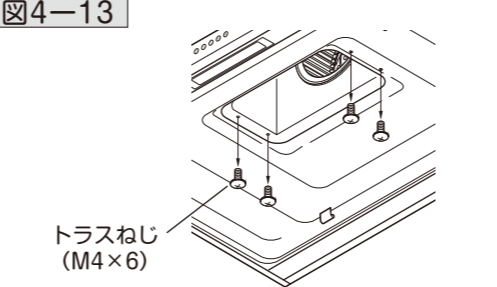


9 煙道を取り付けます。

1) 付属品の煙道内の固定テープをはがし、ベルマウスをはずします。(図4-12)

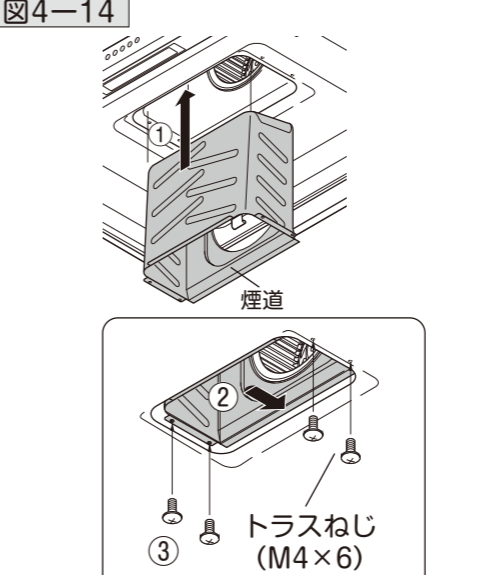


2) トラスねじ (M4×6) 4本をフードからはずします。
※取りはずしたねじは再度使用しますので、なくさないでください。(図4-13)



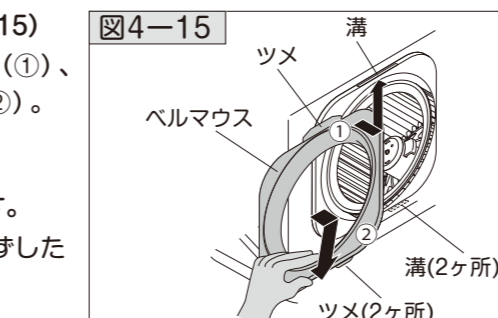
取り付けかた (つづき)

3) ①煙道をフード開口部の前側(スイッチ側)に沿わせるように挿入したあと、②ファン側に押し込みます。(図4-14)
※煙道はキズをつけないよう、ゆっくりと差し入れてください。



4) ③2) ではずしたトラスねじ (M4×6) 4本でフードに固定します。(図4-14)
※煙道を確認にファン側へ押し込んでいないとねじ穴が合わず、トラスねじを締め付けられません。

10 ベルマウスを取り付けます。(図4-15)
ベルマウスを上側の溝へ押し入れ(①)、ベルマウス下側を溝に入れます(②)。

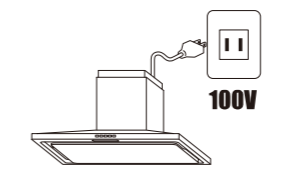


11 オイルバック、整流板を取り付けます。
「3.フード・本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

5. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



■「4.本体の取り付け」手順4の 2) で以下の作業をおこないます。

- 1) アース (D種接地工事) を取ります。
- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。


お願い

- ・電源は専用のコンセント (2極差込接続器 15A 125V) およびブレーカーを設けてください。
- ・「6.試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- ・必ずアース工事 (D種接地工事) をしてください。

6. 試運転

注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります



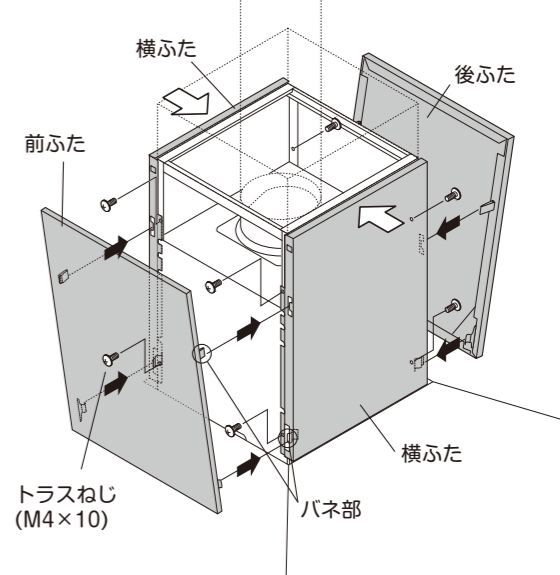
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 前ふた・後ふた・横ふたは取り付けていない状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異音や振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事で発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

- 横ふたは左右同一品です。また、前ふた・後ふたも同一品となります。
- 横ふたを先に取り付けてください。
- 取り付けかたは「3.フード・本体の準備」の取りはずしかたを参考にしてください。

お願い

- ・取り付けの際は、フード天板面にキズをつけないように注意して取り付けください。
- ・前ふた・後ふたの取り付けは、下蓋(フードに近い側)を先にフードの溝に差し込みながら取り付けられたあと、上蓋を押し込むようにして取り付けてください。



※取り付け完了後は製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープはもとの状態に取り付けてください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

(製造元) 富士工業株式会社
 本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
 TEL 042 (768) 3754 (営業部)